

022

災害時にも使用可能なトイレの開発

✓ いつもの水洗トイレが簡単に災害用に！

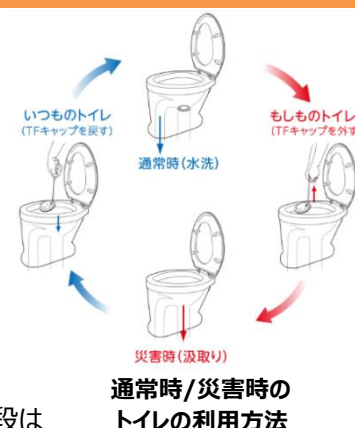
取組主体	従業員数	想定災害	実施地域
株式会社アルソナ技研	4名	地震等	千葉県

株式会社アルソナ技研は、普段は水洗、断水時には汲み取り式となるトイレを開発した。

1 取組の特徴（特色、はじめたきっかけ、狙い、工夫した点、苦労した点）

被災地での気づきをもとに、断水時でも直ちに使えるトイレを開発

- 前職時代、内装・リフォーム等の事業を行っていた株式会社アルソナ技研の代表者は、中越地震等大規模災害後の復興支援を行う中で、断水への対応、仮設設置にかかる時間等、トイレについてのいくつかの課題を現地で肌と感じた。この気づきをもとに、内装に関わる新たな関連事業として、災害時にも使用可能なトイレの開発をはじめた。
- 同社代表者はトイレの製造に関してのノウハウを持っていなかったが、樹脂メーカーの紹介によりトイレメーカーのOBでプラスチック成形工場の代表取締役との面識を得た。二人で設計・開発に取り組むこととし、約3年の試行錯誤ののち、普段は水洗式として使うことができ、災害等により断水が発生した際には、汲み取り式へと切り替えることのできるトイレを開発した。現在、公園や養護施設、マンションの管理室等での導入が進んでいる。



底蓋を外すことで直ちに水洗から汲み取り式へと切り替え

- 開発された製品は下水道とつながっており、通常は一般の水洗トイレとして活用される。地震等により断水が発生した際には、便器の底蓋を外すことで地下や床下等に設置されたピットへとつながり、汲み取り式のトイレへと切替わる仕組みとなっている。
- この方式により断水時であっても直ちに利用が可能となるとともに、プライバシーの保護等仮設トイレの抱える問題にも対応を図ることができ、被災者や支援者の環境面、心理面の衛生の維持につなげることを目指している。

2 取組の平時における利活用の状況

- 平時は一般的な水洗トイレとして使用する。普段から使い慣れたトイレを災害時にも使うことになるため、安心感が得られる。

3 現状の課題・今後の展開等

- 震災時に職場放棄ができない業種の企業や公共施設への普及を進める必要がある。
- どこに災害トイレが設置されているかの情報を地元住民や帰宅困難者等へ周知できるような仕組みを構築する必要がある。

代表メッセージ



操作が容易なため、災害時でもすぐに使える利便性がある

- 災害時に避難住民が集まる公園や広場への導入を進めることで、発災時の混乱を防ぐことができます。
- 簡易トイレの場合だと、プライバシーが守られにくいですが、当社が開発したトイレであれば子ども・女性・高齢者・障がい者の方々にも安全安心に使ってもらえます。
- 災害時のトイレ問題の解消・軽減にお役に立てるよう尽力して参ります。

問合せ先

株式会社アルソナ技研 法人番号:6040002015409
TEL 043-312-1386 FAX 043-312-1387 E-Mail office@arsona.co.jp